

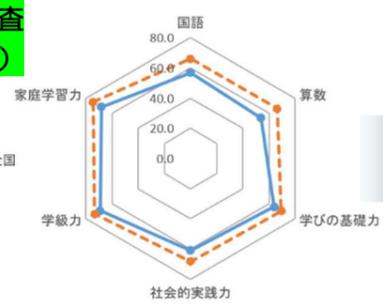


令和6年度 町学力検査（小学5年生，中学1・2年生）の結果と今後の展望

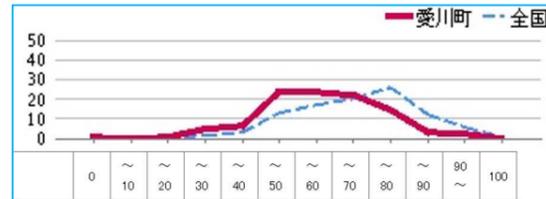
令和6年度に実施された小学5年生，中学1・2年生対象の町学力検査について，結果から見てくる町の小・中学生の課題とその改善策について，学校の先生方とともに，分析した結果と今後の展望を報告します。

現
中
学
2
年
生

小学5年生時調査 (2021年度)



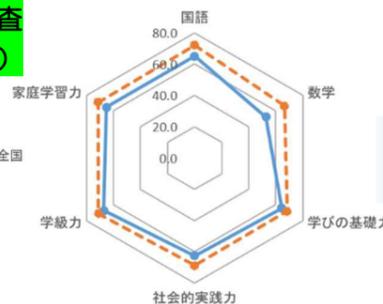
国語の正答率の分布



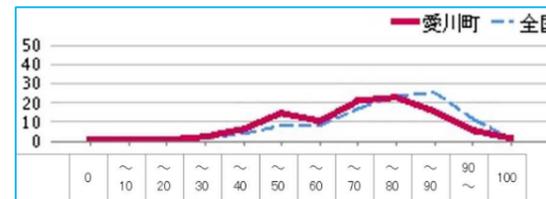
算数の正答率の分布



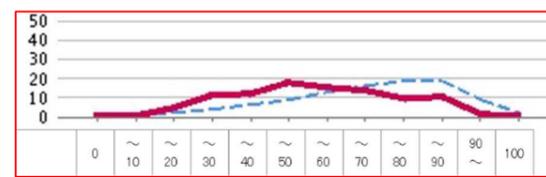
中学1年生時調査 (2023年度)



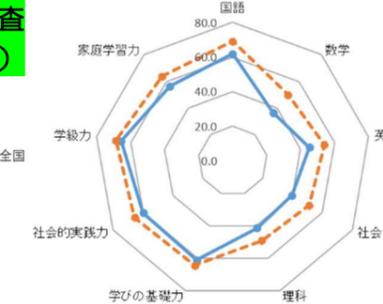
国語の正答率の分布



数学の正答率の分布



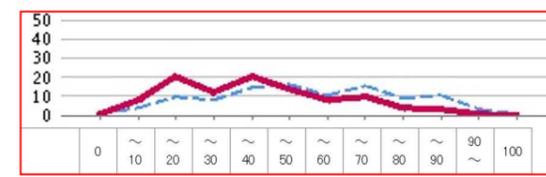
中学2年生時調査 (2024年度)



国語の正答率の分布



数学の正答率の分布



1 町内児童生徒の教科に関する調査結果

正答率の分布に注目すると，現中学2年生の国語については，正答率の分布の山の形が小学校から中学校になると右側にずれており，全体的な伸びが見られます。算数・数学については，少しずつ山が左側にずれ，また全体的に分散していることから，学年が上がるにつれ，学習内容が未定着な生徒が多くなっていると考えられます。

現中学1年生の国語については，正答率の分布の山の形が小学校から中学校になるとやや右側ずれ，伸びが感じられます。算数・数学については，小学5年生時では，全体的に分散しており，中学1年生時には，山が2つに広がりつつあることから，学習内容の定着度に開きがあることが読み取れます。

現小学5年生の国語については，正答率の分布の大きな山の頂点が41～50点，なだらかな山の頂点が71～80点にあり，算数については，なだらかな山になっております。学習の定着度に差があることが読み取れます。

本検査では，学力層別の正答率等を単元ごとに知ることができるため，未定着の児童生徒が多い単元については，復習を行い，定着度に二極化の傾向がある単元については，習熟度別指導を行うなど，各校で単元ごとに指導内容を工夫していくことが重要であると考えられます。

2 町内児童生徒の意識に関する調査結果

左のレーダーチャートにある「学びの基礎力」「社会的実践力」「学級力」「家庭学習力」は，児童生徒の意識に関する調査の結果が反映されています。

今年度の意識調査の中で特徴的だった点を挙げると，「勉強やスポーツのことで，家の人が応援してくれる（学びの基礎力）」「自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う（社会的実践力）」「私は『ありがとう』を伝えあっている（学級力）」と答えた児童生徒がいずれの学年も90%を超えていました。

「自分と違う意見も尊重している（社会的実践力）」は，5年生が約72%，中学1・2年生が約88%と，中学生の方が高い傾向が見られました。

「自分の得意な分野をさらに伸ばすために，家で自分なりに学んでいることがある（家庭学習力）」は約63～69%でした。

各小中学校では，本検査の結果と分析をもとに，キャリア教育の充実，委員会活動へのアプローチ，家庭学習に取り組みやすくなるような工夫など，各校の特徴を踏まえた実践に取り組んでいきます。

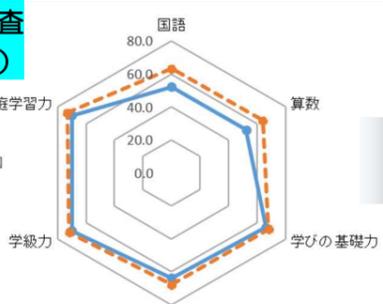
3 今後の展望

本検査から，各校が自校の強みや課題，児童生徒の年齢的な特徴を捉えると同時に，児童生徒それぞれの傾向にも目を向け，家庭や地域とともに，一人一人の良さや可能性を見いだしていくことができるよう，そしてそれを伸ばしていくことができるよう，取組を進めていきます。

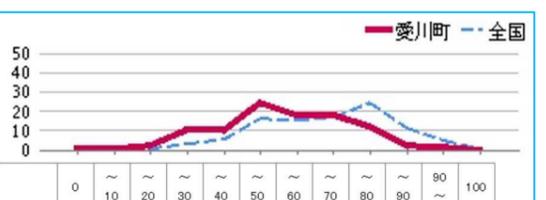
また，小中一貫教育の視点から，各中学校区での情報共有も大切に，町全体で子どもたちの成長を見守っていきます。

現
中
学
1
年
生

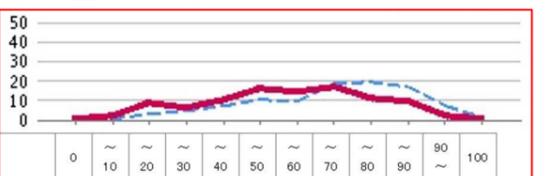
小学5年生時調査 (2022年度)



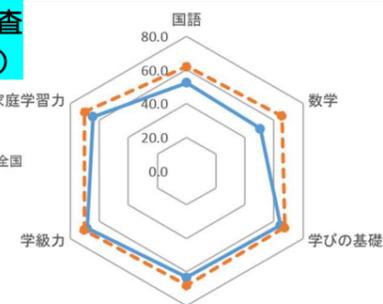
国語の正答率の分布



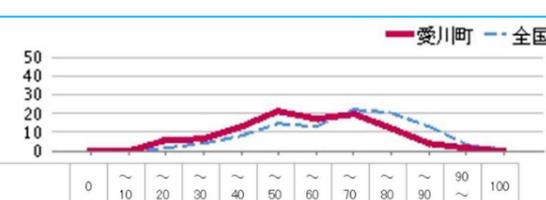
算数の正答率の分布



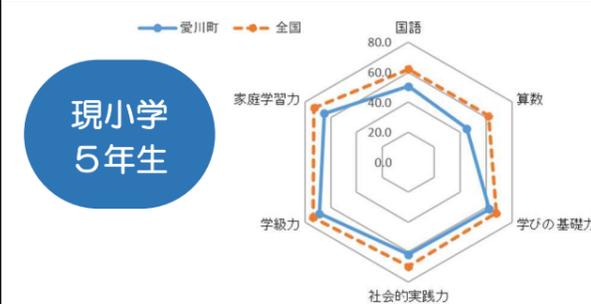
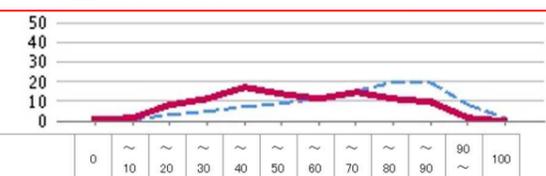
中学1年生時調査 (2024年度)



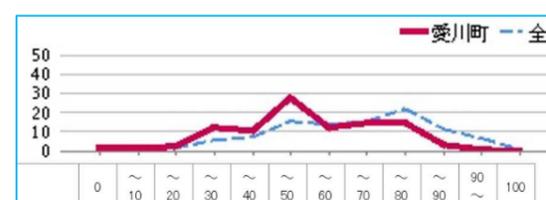
国語の正答率の分布



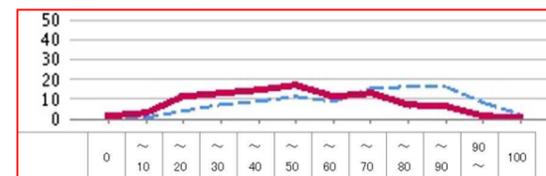
数学の正答率の分布



国語の正答率の分布



算数の正答率の分布



現
小
学
5
年
生